

受 検 番 号							番
---------	--	--	--	--	--	--	---

問1 次の計算をした結果として正しいものを、それぞれあとの1～4の中から1つずつ選び、その番号を答えなさい。

(ア) $-9 + (-8)$

1. -17

2. -1

3. 1

4. 17

(イ) $\frac{4}{9} - \frac{3}{4}$

1. $-\frac{11}{36}$

2. $-\frac{2}{9}$

3. $\frac{2}{9}$

4. $\frac{11}{36}$

(ウ) $18a^2b \times 4ab^3 \div 6a^2b^3$

1. $8a$

2. $12ab$

3. $18b^2$

4. $24ab^2$

(エ) $\sqrt{20} - \frac{15}{\sqrt{5}}$

1. $-2\sqrt{5}$

2. $-\frac{3\sqrt{5}}{2}$

3. $-\sqrt{5}$

4. $\sqrt{5}$

(オ) $(3 + \sqrt{7})(3 - \sqrt{7}) - 4(\sqrt{7} - 3)$

1. $-10 - 4\sqrt{7}$

2. $-10 + 4\sqrt{7}$

3. $14 - 4\sqrt{7}$

4. $14 + 4\sqrt{7}$

問2 次の問いに対する答えとして正しいものを、それぞれあとの1～4の中から1つずつ選び、その番号を答えなさい。

(ア) 連立方程式
$$\begin{cases} 0.8x + 0.2y = -6 \\ \frac{2}{3}x + \frac{5}{6}y = -1 \end{cases}$$
 を解きなさい。

1. $x = -9, y = 6$

2. $x = -6, y = 9$

3. $x = 6, y = -9$

4. $x = 9, y = -6$

(イ) 2次方程式 $2x^2 + x - 2 = 0$ を解きなさい。

1. $x = \frac{-1 \pm \sqrt{17}}{4}$

2. $x = \frac{-1 \pm \sqrt{17}}{8}$

3. $x = \frac{1 \pm \sqrt{17}}{8}$

4. $x = \frac{1 \pm \sqrt{17}}{4}$

(ウ) 関数 $y = -\frac{1}{4}x^2$ について、 x の値が2から6まで増加するときの変化の割合を求めなさい。

1. -8

2. -2

3. 2

4. 8

(エ) ある理髪店では、大人1人のカット料金が子ども1人のカット料金より800円高い。大人1人のカット料金と子ども1人のカット料金の比が5:3であるとき、子ども1人のカット料金を求めなさい。

1. 900円

2. 1200円

3. 1400円

4. 1600円

(オ) $\sqrt{66-2n}$ が整数となるような正の整数 n の個数を求めなさい。

1. 2個

2. 3個

3. 4個

4. 5個

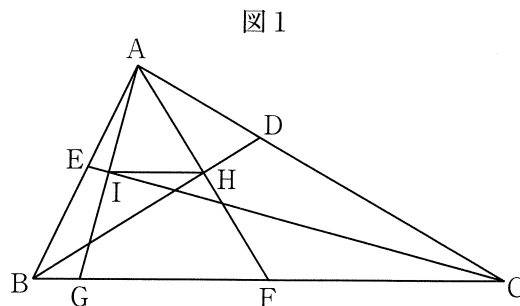
問3 次の問いに答えなさい。

- (ア) 右の図1のように、 $AB < AC$ となる三角形 ABC がある。点 D は辺 AC 上の点で線分 BD は $\angle ABC$ の二等分線であり、点 E は辺 AB 上の点で線分 CE は $\angle BCA$ の二等分線である。

また、2点 F, G は辺 BC 上の点で、 $AB = BF$, $AC = GC$ となる点である。

線分 BD と線分 AF との交点を H 、線分 CE と線分 AG との交点を I とし、線分 HI を引く。

このとき、次の(i), (ii)に答えなさい。



- (i) 三角形 AIH と三角形 AGF が相似であることを次のように証明した。□(a)～□(c)に最も適するものを、それぞれ選択肢の1～4の中から1つずつ選び、その番号を答えなさい。

【証明】

$\triangle AIH$ と $\triangle AGF$ において、

まず、 $AB = BF$ より、

$\triangle ABF$ は二等辺三角形である。…………①

①より、頂角である $\angle ABF$ の二等分線は底辺を垂直に2等分するから、

□(a)より、

$AH : AF = 1 : 2$ ……………②

同様に、 $AC = GC$ より、

$\triangle ACG$ は二等辺三角形である。…………③

③より、頂角である $\angle ACG$ の二等分線は底辺を垂直に2等分するから、

$AI = IG$ より、

□(b) = $1 : 2$ ……………④

また、共通な角だから、

$\angle IAH = \angle GAF$ ……………⑤

②, ④, ⑤より、□(c)から、

$\triangle AIH \sim \triangle AGF$

(a)の選択肢

1. $AE = EB$
2. $AH = AI$
3. $AH = HF$
4. $FH = GI$

(b)の選択肢

1. $AE : AB$
2. $AI : AG$
3. $AH : AG$
4. $IH : GF$

(c)の選択肢

1. 3組の辺の比がすべて等しい
2. 2組の辺の比とその間の角がそれぞれ等しい
3. 2組の角がそれぞれ等しい
4. 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しい

- (ii) $AB = 5\text{cm}$, $BC = 10\text{cm}$, $CA = 9\text{cm}$ のとき、線分 HI の長さとして正しいものを次の1～4の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

1. 2cm

2. $\frac{5}{2}\text{cm}$

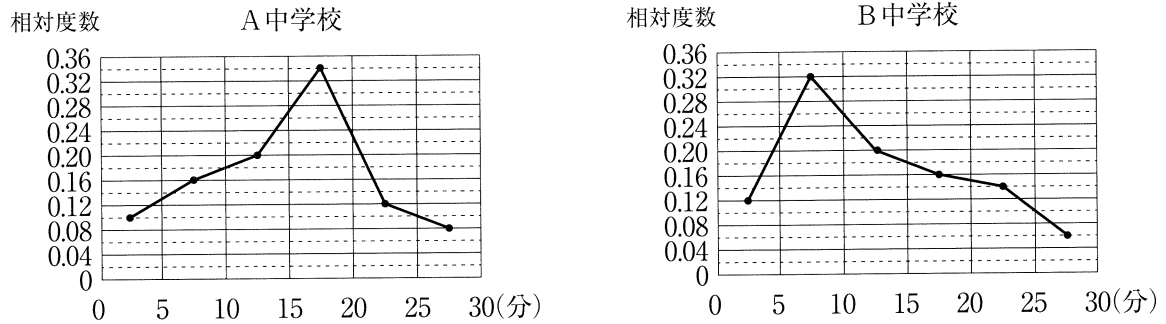
3. 3cm

4. $\frac{7}{2}\text{cm}$

(イ) 次の図2はA中学校の生徒100人とB中学校の生徒200人の通学時間をそれぞれまとめ、その相対度数の分布を折れ線グラフに表したものである。なお、階級は0分以上5分未満、5分以上10分未満などのように、階級の幅を5分として分けている。

図2のグラフから読み取れることがらを、あとのあ～えの中から2つ選んだときの組み合わせとして最も適するものを1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

図2



あ. 中央値を含む階級の階級値はA中学校の方がB中学校より大きい。

い. 最頻値を含む階級の階級値はA中学校とB中学校で同じである。

う. 通学時間が5分以上20分未満の生徒の割合はA中学校とB中学校で同じである。

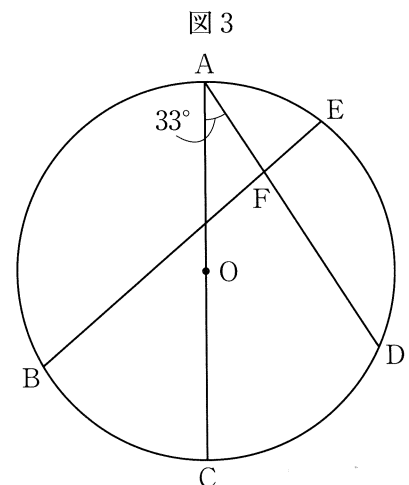
え. 通学時間が20分以上の生徒の人数はA中学校はB中学校の $\frac{1}{2}$ である。

1. あ, い 2. あ, う 3. あ, え 4. い, う 5. い, え 6. う, え

(ウ) 次の□の中の「あ」「い」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

右の図3のように、線分ACを直径とする円Oの周上に点B, D, Eをとり、線分ADとBEの交点をFとする。

$\widehat{AB} : \widehat{BC} = 2 : 1$, $\widehat{DE} : \widehat{EA} = 2 : 1$, $\angle CAD = 33^\circ$ のとき、 $\angle AFB = \square\text{あ}\square\text{い}^\circ$ である。

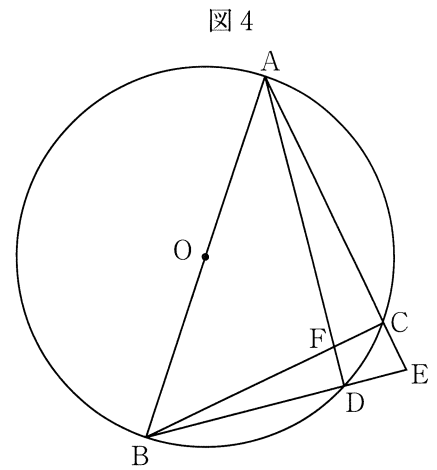


- (エ) 次の□の中の「う」「え」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

右の図4のように、長さ $4\sqrt{5}$ cmの線分ABを直径とする円Oの周上に、 $AC=BC$ となる点C、およびBDの長さが4cmとなる点Dをとる。

ACの延長とBDの延長との交点をE、ADとBCとの交点をFとする。

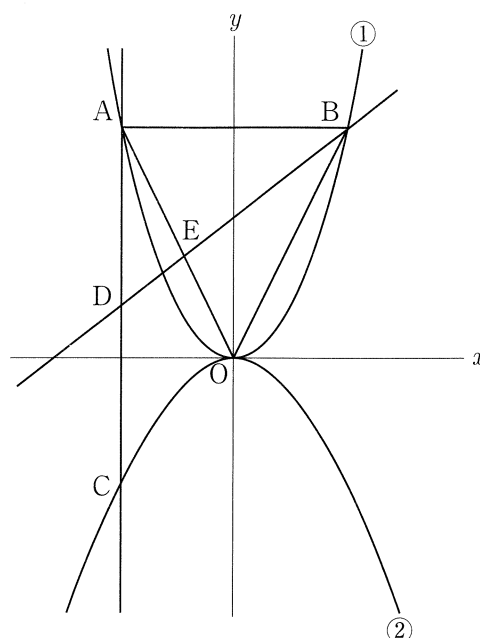
このとき、線分DEの長さは $\frac{\text{う}}{\text{え}}$ cmである。



問4 右の図において、曲線①は関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ のグラフ、
曲線②は $y = ax^2$ のグラフである。

点Aは曲線①上の点であり、そのx座標は-4である。
点Bは曲線①上の点であり、線分ABはx軸に平行である。
点Cは曲線②上の点であり、直線ACはy軸に平行であり、 $AB:AC=2:3$ である。また、点Dは線分AC
の中点である。さらに、原点をOとすると、点Eは
線分OAと直線BDの交点である。

このとき、次の問いに答えなさい。



(ア) 曲線②の式 $y = ax^2$ の a の値として正しいものを次の
1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

1. $a = -2$

2. $a = -1$

3. $a = -\frac{2}{3}$

4. $a = -\frac{1}{2}$

5. $a = -\frac{1}{3}$

6. $a = -\frac{1}{4}$

(イ) 直線BDの式を $y = mx + n$ とするときの(i) m の値と、(ii) n の値として正しいものを、それぞれ次の1～6の中から1つずつ選び、その番号を答えなさい。

(i) m の値

1. $m = \frac{2}{3}$

2. $m = \frac{3}{4}$

3. $m = \frac{4}{5}$

4. $m = 1$

5. $m = \frac{3}{2}$

6. $m = \frac{5}{4}$

(ii) n の値

1. $n = 4$

2. $n = \frac{9}{2}$

3. $n = 5$

4. $n = \frac{11}{2}$

5. $n = 6$

6. $n = \frac{13}{2}$

(ウ) 次の□の中の「お」「か」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

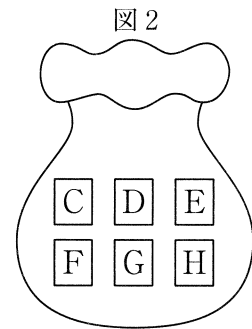
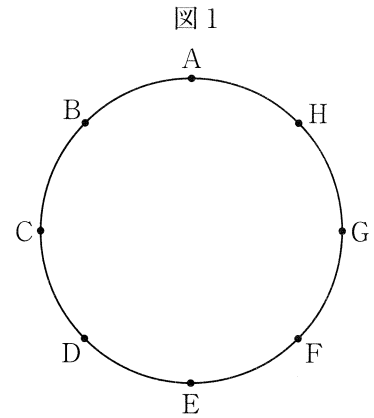
原点Oと点Cを結び、三角形OBEの面積をS、四角形OEDCの面積をTとする。このとき、 $S:T$ を最も簡単な整数の比で表すと、 $S:T = \text{お}:\text{か}$ である。

問5 右の図1のように、円周を8等分する点A, B, C, D, E, F, G, Hがある。

また、図2のように、袋の中にC, D, E, F, G, Hの文字が1つずつ書かれた6枚のカードが入っている。これらの6枚のカードで、次の【操作1】、【操作2】を順に行い、できる2本の線分について考える。

【操作1】 袋の中からカードを1枚取り出し、書かれている文字と同じ文字の図1の点と点Aを結び、取り出したカードはもとに戻す。

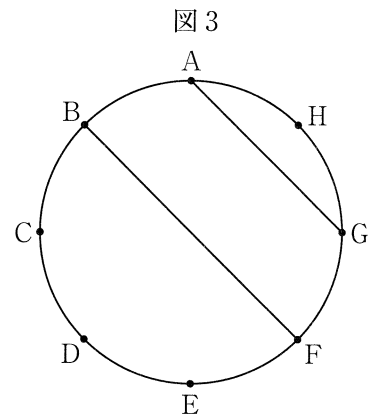
【操作2】 再び袋の中からカードを1枚取り出し、書かれている文字と同じ文字の図1の点と点Bを結ぶ。



例

【操作1】でGが書かれたカード、【操作2】でFが書かれたカードを取り出したとき、右の図3のようになり、

- ・線分AGと線分BFは平行である。
- ・線分AGの長さは線分BFの長さより短い。



いま、図1の状態、【操作1】、【操作2】を順に1回ずつ行うとき、次の問いに答えなさい。ただし、6枚のカードはどのカードが取り出されることも同様に確からしいものとする。

(ア) 次の□の中の「き」「く」「け」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

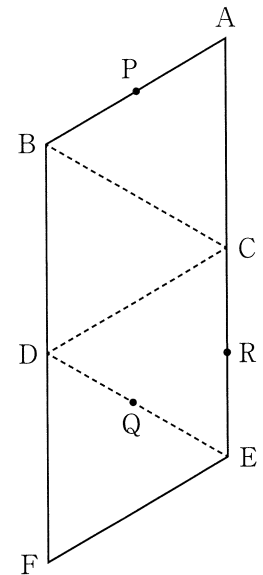
できた2つの線分が垂直に交わる確率は、 $\frac{\boxed{\text{き}}}{\boxed{\text{く}}\boxed{\text{け}}}$ である。

(イ) 次の□の中の「こ」「さ」「し」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

できた2つの線分の長さが等しくなる確率は、 $\frac{\boxed{\text{こ}}}{\boxed{\text{さ}}\boxed{\text{し}}}$ である。

問6 右の図は、1辺6 cm の正四面体の展開図であり、点P、点Q、点Rはそれぞれ、辺AB、辺DE、辺CEの中点である。

この展開図を点線で折り曲げてできる正四面体について、次の問いに答えなさい。ただし、組み立てたあとの点Aから三角形BCDまでの距離は $2\sqrt{6}$ cm である。



(ア) この正四面体の表面積として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. $9\sqrt{2}\text{cm}^2$ | 2. $9\sqrt{3}\text{cm}^2$ |
| 3. $36\sqrt{2}\text{cm}^2$ | 4. $36\sqrt{3}\text{cm}^2$ |
| 5. $81\sqrt{2}\text{cm}^2$ | 6. $81\sqrt{3}\text{cm}^2$ |

(イ) 3点P、Q、Rを結ぶとき、三角すいAPQRの体積として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. $\frac{2\sqrt{3}}{3}\text{cm}^3$ | 2. $\frac{4\sqrt{2}}{3}\text{cm}^3$ |
| 3. $\frac{9\sqrt{2}}{4}\text{cm}^3$ | 4. $\frac{9\sqrt{3}}{4}\text{cm}^3$ |
| 5. $4\sqrt{2}\text{cm}^3$ | 6. $4\sqrt{3}\text{cm}^3$ |

(ウ) 次の□の中の「す」「せ」にあてはまる数字をそれぞれ0～9の中から1つずつ選び、その数字を答えなさい。

点Qから辺DF、CDと交わるように、点Rまで線を引く。このような線のうち、長さが最も短くなるように引いた線の長さは $\square\sqrt{\square}\text{cm}$ である。

(問題は、これで終わりです。)